



第101回二科福岡巡回展

会期：2017年3月22日（水）～3月26日（日）

会場：福岡県立美術館（1階・3階）

展示点数：350点

入場者数：3,149人

参加支部：二科福岡支部・二科山口支部・二科大分支部
二科佐賀支部・二科長崎支部

▲福岡県立美術館

3月21日の前夜祭は絵画部 中原史雄理事、写真部 森井禎紹理事長をお迎えし、共同主催である西日本新聞社・テレビ西日本の方々、「織田廣喜聞書 絵筆とリラと」の著者で元田川市美術館長 松尾孝司氏、高島野十郎研究の第一人者の県立美術館副館長 西本匡伸氏を始め、多くの出品者の方々に御出席いただき、親睦と交流を深めました。当巡回展のみの西日本新聞社賞を選考しこの前夜祭で表彰を行っていますが、今回絵画部は安川久美子（福岡市）、林一也（八女市）、松本治子（長崎市）の3氏、デザイン部は幸尾螢水（福岡市）、写真部は山口博信（遠賀郡）が選出されました。

今回100回展につづいて、多くの関連事業を開催しました。京都造形芸術大学教授である中原史雄理事を講師のお迎えし、「自分らしい作品づくり支援講座—テーマと描き方」と題し3月22日13時30分より特別講演会を開催しましたが、会場の4階視聴覚室は定員の40名をはるかに超え65名の受講者で熱気に包まれました。二科展出品者だけにとどまらず、多くの方に参加していただきました。

例年開催のギャラリートーク（3/22）は、絵画部は中原史雄理事、写真部は森井禎紹理事長、デザイン部は地元会員によるトークが行われ貴重なお話を聞くことができました。しかし今回は更に他の日も全日程ギャラリートークを地元出品者によって、“自作を語る”ギャラリートークを開催、語る本人も熱が入るし、参加者の皆さんにも好評でした。



▲絵画部ギャラリートーク



▲デザイン部ギャラリートーク



▲写真部ギャラリートーク

入場者へのプレゼント抽選会では出品作家の色紙プラス協賛者からご提供いただいた豪華フェリーでの旅行、リゾートホテルの宿泊券等をプレゼントしました。

会期が例年より短く、会場もかなり狭く、入場者数は伸び悩みましたが、出品者の皆さんの協力により暖かでふれあいのある巡回展となりました。

○4部門会場展示に関するコラム記事

《絵画部》

会場の制約により、巡回作品を52点にしぼって展示しました。天井の高い1階に大きな作品と彫刻を並べ、3階の入口から絵画→デザイン→写真→絵画と途中にデザイン・写真を入れ変化を持たせました。見やすく解りやすい展示を心掛けました。

《彫刻部》

1階の彫刻展示室は柔らかな自然光が入り、天井が高いので、大変見やすいのが特徴です。時刻によって光線が微妙に変化し、そこもまた楽しめる展示となりました。

《デザイン部》

展示数は75点、絵画部の鑑賞途中ではあるが一息され、その流れでデザイン、写真を楽しんでいただくコースになりました。展示内容は受賞作品を主体に、一般、会友、会員の作品は少なくなったのが残念でした。三段掛けができない壁面で、一部イラスト小型の作品は人気がありますので、次回7点増やすことは可能です。今回の話題はやはり二科賞で創作的な野心が、シャープな技術、題名がユーモラスだと二科ファン評でした。

《写真部》

名誉会員・会員・会友作品509点、一般公募作品838点、合計1,347点の中から、地元作品(九州・山口)を中心に120点を展示いたしました。会場の関係で展示作品数は昨年の半分程度となりましたが、バラエティーに富んだ展示となり、初日には写真部理事長の森井禎紹のギャラリートークも実施し、有意義な展覧会となりました。



▲販売コーナー



▲プレゼント抽選会での当選者

会場1Fと3Fが分かれて展示



▲1F入口



▲3F入口